

扇の松の木の下で

～花水をもっと「わたしたちのまち」に～

第1号

2002年1月7日

編集：花水地区福祉
コミュニティづくり
グループ広報部

"福祉"とか"ボランティア"って、

特別なものっていう感じだし、
ま、いいことなのかも知れないけど、
私にはあまり関係ないや・・・

そう感じている **あなた**へ

特別なものとしてではなく、
自分達の住む街を暮らしやすくしたい
そんな思いから
「福祉コミュニティづくり」グループは始まりました。

気楽にうち解けられる仲間がいたら楽しいだろう・・・

本当は、ちょっと困ったとき、話ができる人が身近にいと助かる・・・
趣味を生かして、こんなことだったらできるけどね・・・

できることなら、ちょっとだけ、

自分の暮らす街を、自分自身の手でもっと暮らし

やすくしてみたい・・・
自分の住む街をもっと身近にしてみたい・・・
そう思っていらっしゃる方、少なくないのではないのでしょうか。

福祉は特別な誰かがやるのではなく、
私たち自身にもできることがあるんじゃないか、

私たちはそう考えています。

私たちは花水の福祉に関心をも
つ有志（公募による）の集まりです

買い物、ゴミ出し、犬の散歩、



ご高齢の方や障害をお持ちの方だけでなく
誰だって、ちょっとだけ手伝ってもらいたいことがありますよね。

もしかすると、そういう思いをもっていらっしゃる方、結構いら
っしゃるんじゃないでしょうか

そんな **あなた** に向け、このちらしをつくりました。

ワークショップ開始！

暑い盛りの8月7日、一般公募で集まった約30名が活動を開始しました。自治会、民生委員児童委員、地区社協、NPOやボランティア活動などに携わっている方、企業を退職され地域に戻られた方、主婦、学生など、さまざまな方が集まりました。

(財)さわやか福祉財団の木原勇さんの音頭により自己紹介が行われました。ひとり2分という制限時間の中で、みんなが地域福祉やボランティア、地域づくりへの熱意を語ります。結構すごい。なんで、この狭い地域に、これだけ熱心な人がいるんだろう。

話し合いはどのように展開していてもよいそうです。市役所の人も、何をやってもよいし何をしなければいけないというものではないと、言っていました。じゃあ、何をやればよいのだろうか？ でも、ひとりのお年寄りが始めた「街角

のケースワーカー」の事例などを聞くと、私たちにも何かできるかもしれない。ちょっぴり、次回からのワークショップに期待が膨らみました。

助け合いゲーム

8月28日。シンポジウムで堀田さんから紹介があった「地域通貨」を実際に体験するゲームです。でも、単なるゲームかと馬鹿にしていたのですが、つい夢中になってしまいました。

まずトランプのようなカードが配られました。「食事作り」「モーニングコール」「話し相手」「ゴミ捨て」「裁縫」「包丁磨ぎ」「車で送迎」などと書かれています。50種類

ほどあるでしょうか。

この中から、自分がしてもらいたいものを5枚選べという。私は、一人暮らしだから、「着物の着付け」「マッサージ」「部屋の模様替えの手伝い」「宅配便などの受け取り」「日曜大工」を選びました。「グ

ワークショップ報告

シンポジウムで元気をもらいました

「ふれあいボランティアで地域が変わる！」

7月24日(火)午後、平塚商工会議所に、猛暑の中にもかかわらず282人の方が集まりました。

基調講演では、(財)さわやか福祉財団の堀田力理事長が、「隣近所で自然に助け合う、助けてと言える地域にしていく」ために、「地域の助け合いを進める<地域通貨>」や「地域で子育てを支えるしくみ」など、地域で取り組めるさまざまな具体的な事例を紹介されながら、みんなで「まち」をつくることの楽しさ、意義を訴えられました。

パネルディスカッションでは、花水地区町内福祉村の荻野さん、NPO法人地域住環境改善センターの福井さん、NPO法人ワーカーズ・コレクティブ笑顔の笹尾さんたちの活動報告やボランティアの勤めなどがあり、会場から熱心な質問が投げかけられました。

私でも何かできる、と背中を押された感じがしました。

ループ内においてサービスの交渉をしてください」です。隣のおばさんから、早速、声がかかります。「あなた、ワープロできるでしょう。」「ええ、ワープロなら。あ、着付けができないで困っているんですけど代わりにお願いできないかしら」「それなら、お安い御用よ。着物はどんなやつ？」。

こうして、会話が進むうちに、次々にカードが交換されていきます。私にも、できることがこんなにあるんだなあ。自分の住んでいるマンションでも、こういうやりとりができると、素敵だと思いました。

そしてチーム編成

9月25日と10月2日には、みんなで「花水の課題」を出し合いました。グループごとに発表し、3つの課題に集約。この指とまれ方式で「情報」「交流」「人」で、チーム分けをしました。新しいチームに名前を付けようということみんなで考えたら、「華」「クロス」「らぶ」となりました。ユニークですね。

チーム活動報告



<華チーム> キーワード“情報”

街づくり、コミュニティづくり...、もしかすると「誰もが何かしら参加したい」という思いを持っているのかも知れない。その思いがお互いに届かないのでは？人と人が結びつくには“情報”がとても大切だと感じたメンバー。華チームは、“情報”をキーワードに活動を進めています。

でも、“情報”が大切と言っても、では、一体何から手をつけたらいいのか皆目見当がつかず。まずは、公民館で活動するサークルや、地区内の商店等あてのアンケートの実施などを通して、私たちの趣旨に共感してもらえる仲間を、お一人でも見つけられれば、そこから輪を広げていこう・・・、それが“情報”の輪を広げていくことにつながるかな・・・私たちは、そう考えました。

このページをご覧いただいているあなたも、是非、ご連絡ください。一緒に、私たちの住む街の情報を交換し、暮らしやすい街にしていきませんか。（菊池）

私たちは10月からチームに分かれて活動しています



<クロスチーム> キーワード“交流”

私たち「クロスチーム」は、地域の人々と共に歩むことができる「交流の場づくり」を考えたいと思い、地域の「福祉マップ」作りに取り組んでいます。

みなさんにとって必要な場はどのような場でしょうか？どのような場があれば、安心して暮らしていくことが出来るでしょうか？

現在の活動としては、花水地域内の各種施設の訪問・見学を中心にを行い、それらを通して場についてメンバー間での意見交換をしています。これからの「福祉マップ＝場作り」では、垣根を低くし誰でも気軽に利用できる楽しい場所でありたいと思います。私たちの住む花水地域に、物理的な場でないより所としての交流の場・情報発信基地としての交流の場ができたならなあ...いいなあと考えています。

毎回のミーティングはリラックスした雰囲気の中で行われています。一緒にちょっと考えてみたいなあと思われる方いらっしゃったら、ぜひぜひ一緒に活動していきましょう。（中島）

<らぶチーム> キーワード“人”

人の迷惑にならないように暮らしたい。近所の方とは挨拶くらいはするけれどあまり立ち入られたくない。 - 平塚市で実施した地域へのかかわりのアンケートの中にみられる地域の現状です。

「今は元気だから大丈夫。子どもたちにも世話をかけたくないし」。どうしても困ったら・・・。「その時はやっぱり家族かしら」。家族だけでは支えられない。つらいこともありますね。娘やお嫁さんだけに頼ってはいませんか。人と人のかかわりが多様であることが、生活を豊かにします。世代間の断絶などと言われますが、一人一人とじっくり話してみたら、みんなそれぞれ考えていることがあると思うのです。これからの地域の担い手である中・高校生の皆さんの話しも参考とさせてもらいながら、人と人のつながりを考えてみたいと思います。

テーマは「私にできること - 地域へのかかわり」です。どうぞ私たちにアクセスしてください。どんな声でも私たちに聞かせて下さい。（柏木）



地区報告会のお知らせ

チーム活動の経過報告を中心に、地域の皆様にメッセージをお伝えします。皆様のご意見もこの機会にお話しく
ださい。入場自由です。

日時：2月5日（火）14：00～16：00

場所：花水公民館2Fホール

コーディネーター：（財）さわやか福祉財団 木原勇 氏

福祉コミュニティづくりグループでは、毎
回のチーム活動の様子を、ホームページ「扇
の松の木の下で」で、詳しくお知らせしてい
ます。

<http://y7.net/hanamizu/>

このホームページは、地域の情報発信基地
としても発展中です。

ボランティアスタッフも募集中！！詳しくは広報部まで。

e-mail: hanacrosslove@anet.ne.jp

F M湘南ナバサに出演！（78.3Mhz）

各チームがそれぞれの活動の思いを語ります。いずれも朝
9:05～9:12です。

12月25日（火）クロスチーム

1月8日（火）華チーム

1月15日（火）らぶチーム

<番組から>「年をとったら、障害者
になったら、平塚に住みたいね」と
言われるまちに皆でできたらよいと
思います（クロスチーム・宮坂）

<編集後記>

私たちは、地域の皆様と共に手をつなぎ、新しい時代の福祉
のあり方を模索していきたいと考えています。（クロス・荻野）

あーでもない、こーでもない議論を重ね、出来上がったア
ンケートを手に街に出たのは12月12日、年末の気忙しい時季
にもかかわらず、皆さん協力的でチーム一同、感謝々々。これ
からの作業に弾みがつきそう。今年の干支は午、軽快に走りたい
ものです。（華・金子（文））

ほんのちょっとしたきっかけで、あなたと私がつながることが
できると思うのです。（らぶ・鈴木）

自分の暮らす街のことだから、微力な私自身にも、一つくら
いできることがあるんじゃないか。そんな思いでやっています。
一人でも仲間が増えることで勇気づけられます。今始まったば
かり。年齢、性別、職業、一切不問！どんな小さな形でも、ご
参加いただければと思います。ご意見だけでもお寄せいただい
ければ幸いです。是非、ご一報ください。（華・菊池）

花水地区福祉コミュニティづくり グループメンバー

平成13年10月23日現在

<華チーム>

伊澤 三奈美
小川 久美子
金子 文代
菊池 健志
佐々木 節子
椎野 文子
芝山 宏人
田平 尚代
内藤 泰子
峰尾 志賀子

<らぶチーム>

大木 博子
大見 京子
柏木 光江
金子 公子
木村 道子
鈴木 憲子
花原 恵子
丸井 みどり
武藤 ひとみ
高橋 慎一郎
三杉 力男

<クロスチーム>

内田 久子
荻野 俊夫
小山 君子
高橋 龍正
高橋 富貴子
中島 民恵子
林田 直子
宮坂 由美子

<編集・発行>

花水地区福祉コミュニティづくり
グループ広報部（菊池、小川、林
田、中島、鈴木、柏木）

グループホームページ

<http://y7.net/hanamizu/>

e-mail

hanacrosslove@anet.ne.jp

<連絡先>

平塚市健康福祉部福祉政策課内（担当：

平田・中村）平塚市浅間町9-1

TEL 0463-23-1111 内線2151

FAX 0463-21-9602